

○松下議長 通告５番目、９番、田畑昭二議員、総括方式で質問を願います。

田畑昭二議員。

○田畑議員 ９番、田畑昭二であります。議長の許可を得ましたので、さきの通告に従いまして、総括方式で２点質問をさせていただきます。

まず１点目は、健康ステーションの設置についてであります。

第２次岩出市長期総合計画の「元気で健康なまちづくり」の中で、健康なときから介護予防に取り組むことのできる体制を確立しますとありますが、現在、具体的にどのような取り組みがなされているか、お尋ねをいたします。

次に、介護予防にはさまざまな観点で食事や運動、趣味など、いろいろな方法があると思いますが、その中で健康づくりの基本は、１日１万歩歩くと効果的と言われますが、最近の研究結果から、単に歩数を増やすだけでは効果はなく、歩き方に大きな鍵があることがわかったそうであります。それは、中強程度の歩き方で、具体的には、うっすらと汗ばむ程度の早歩きの歩行時間がどれくらい含まれているかが重要であることがわかってきました。

先日、奈良県に寄せていただき、奈良県健康づくり推進課では、奈良健康長寿基本計画を策定し、現在実行中であります。その１つとして、介護予防の基準として健康寿命の延伸が掲げられております。健康寿命とは、65歳以上の方が日常的に介護を必要とせず、健康で自立した生活ができる期間であります。奈良県では、この健康寿命を平成34年までに日本一にすることを目標に、現在取り組まれているとのことでした。

ちなみに、平成24年の奈良県では、男性が全国５位で17.62年、女性で全国19位で20.51年だそうであります。この目標達成に向けた取り組みの１つに、奈良県健康ステーションの設置があります。このシステムの考え方は、東京都健康長寿医療センター副部長医学博士の青柳幸利先生の考え方に基づいているそうであります。お隣の紀の川市では、この先生を招いて、ことし９月19日と９月20日の２会場で講演されているとのこと。先日、実際に、この奈良県健康ステーションを見学させていただき、その設置運営は、誰でも気軽に健康づくりを開始し、実践できる拠点として、平成26年１月29日に近鉄百貨店の橿原店に仮設した奈良県健康ステーションを、さらに２カ所目を９月１日に王寺町内に設置をされたそうであります。

おでかけ健康法を実践するには、健康づくりに最適な中強度歩行はおでかけにより実践できます。また、骨の形成に必要なビタミンDは日光に当たらないと生成されないため、骨粗鬆症を予防するためにはお出かけは効果的です。予防できる病気

に応じ、1日の歩数とそのうちの中強度の歩数時間の組み合わせを5段階に分けて、その中で最適な組み合わせは、8,000歩のうち、中強程度の時間が20分で予防できる病気は、高血圧症、糖尿病、脂質異常症等々であると言われております。

私も、この活動量計を使って中強度20分を毎日心がけております。中強度をはかる器械はこれであります。こういう小さいものなんですが、これ、一見歩数計に見えますけども、こういうやつです。わかりますか。物すごく、これすぐれもんなんです、実は。これはテルモのメディウォークという、7,000円ですが、これは奈良では100個購入しまして貸し出しをしています。2週間体験をさせて、そして、自分で中強程度のイメージをつくると。隣の紀の川市では50個購入されています。貸し出しを今しております。これは、私自分で買いました。

これはどういう使い方をするかといいますと、置いておきますね。歩きます。普通に歩いていると、中強程度の時間はカウントなりません。特に、すり足の方はゼロです。ずっと永遠に歩いてもゼロです。歩幅を広目に強く歩きますと、こういう運動になりますと、自動的にここがぴかぴか光るんです。すると、そのカウントが1分、2分とふえてきて、20分になると一番カロリー消費の最高の運動量になるということなんです。だから、普通に1万歩とかそういうふうに言いますけども、歩き方がとろい人は、いいカロリー制限になってないんですね。だから、これが全てカウントできますので、これを今奈良の方ではどんどん推奨しているそうなんです。

このメディウォークを使って、健康ステーションでは健康チェックできるように、また、血管年齢計や自動血圧計、骨健康度測定器と、先ほどの活動量計の2週間貸し出しなどを行っております。

実際に私行きて、血液年齢を血液抜かずに器械へ入れたらわかるのがあるんです。私、今現在62歳ですが、もう75歳ぐらいにカウントされました。すぐ状況がわかります、それでね。そこでは運動指導員などの健康サポーターが常にいらっしやって、健康づくりをお手伝いします。また、来やすくするためにも、心の癒やしの場としても配慮されております。

我が岩出市は、他市と比べると、若いまちとして高齢化率は低いんですが、団塊の世代の方々が65歳から70歳に間もなく突入してまいります。その現在こそ、健康なうちに市民の皆様が気軽に健康づくりに取り組める健康ステーションの設置を立ち上げるべきだと思いますが、当局のお考えをお尋ねいたします。

2点目、給食センター及び各保育所の残菜、残食の処理法について、お尋ねいたします。

まず1点目は、当市における現在の総給食数と総残菜及び残食量は、1日当たり平均何キログラムになるのでしょうか。また、その処理方法はどのようになされているか、お尋ねいたします。

先日、お隣の紀の川市の給食センターが7月に新設され、その設備について見学をさせていただきました。その残食等の処理方法は、消滅型生ごみ処理機を使った方法で、その方式は残食・残菜をまず粉碎流し台に投入します。次に、液状化した生ごみを脱水機にかけ、圧送していくわけですが、液体と固体にそこで分離されます。液体は下水へ排水され、固体は消滅型生ごみへ圧送されます。生ごみの固体は、24時間で200キロから300キロの生ごみは完全にバイオの力により消滅してしまいます。したがって、全て配管で移送されるため、ほとんどにおいはありませんでした。極めて衛生的であります。また、この機械は液体と固体を分離しないで、直接生ごみを入れ消滅させる段階で、液体は液肥化し、有機栽培の優良肥料としても再利用が可能な機械であります。

ランニングコストも安価で、これからの循環型社会のニーズに合った設備であると思われます。当市においても、将来的には、衛生面及び循環型再利用の観点からも導入を視野に入れてはどうかと提案するものであります。当局のお考えをお伺いします。

まず1回目、以上でございます。

○松下議長 ただいまの質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長 田畑議員のご質問にお答えいたします。

健康ステーション設置の1点目、介護予防の取り組みについてであります。高齢者が住みなれた地域で、いつまでも自分らしい生活が送れるよう、介護が必要となる状態を予防する活動を継続的に行うことで、元気高齢者を地域に増やしていくため、65歳以上の要介護、要支援認定を受けていない方に、各種介護予防の事業を実施しております。

現在、運動機能の向上を目指したシニアエクササイズ教室を年3教室、認知症予防教室、口腔機能向上教室、栄養改善教室を各1教室実施しており、あわせて教室修了後においても、日ごろから無理をしないで、自分に合った生活リズムで、予防につながる活動を長く続けられるよう啓発に努めているところであります。

こうした働きかけにより、シニアエクササイズ教室では、教室修了者が自主的に自主グループを結成し、現在、8グループ、約140名の方が継続して介護予防のた

めの運動に取り組まれております。また、介護予防の必要性の普及・啓発を目的に介護予防講演会を年1回、さらに地域で行われる高齢者の集まりに出向き、介護予防の講話等も実施しております。今後も高齢者が生き生きと自分らしい生活が送れるよう、介護予防の推進を図るための各種事業を行ってまいります。

次に、2点目の健康ステーションの設置についてお答えします。

健康長寿の延伸は、国の総合的な健康政策である健康日本21の中心課題であり、誰もが強く願うところであります。市の計画は、市民、地域、行政がそれぞれの役割のもと、一体となった健康づくりの推進を目指すもので、市では、各種がん検診や特定健診を初め健康講座や元気アップ教室などの保健事業を通して、市民の疾病予防と健康増進を図っているところであります。

和歌山県では、今年度から健康推進員を養成し、市町村におけるがん検診を初め、各種保健事業や健康づくりイベントの啓発を行うなど、健康長寿の実現に向け、県民総参加の健康づくりを推進しております。

岩出市におきましても、今年度、20名の方が養成講座を受講し、今後、市民の健康づくりに関する種々の啓発活動を行っていただく予定であります。特に、現役世代からの健康づくりは、体力や運動機能の低下をおくらせ、介護予防につながるなど、高齢期の健康に深く関係してくることから、できるだけ早い年齢からの健康づくりが重要であります。

議員ご提言の健康ステーションの取り組みは、日ごろ、余り健康に関心のない方でも、買い物時などの機会に気軽に立ち寄り、健康チェック等を体験できるなど、健康づくりに関心を持っていただくためのきっかけづくりになるものと考えられます。今後、他県や他市の取り組み内容や、その効果等を含めて情報収集に努めてまいりたいと考えております。

○松下議長 教育部長。

○谷中教育部長 給食センター及び各保育所の残菜、残食の処理法についてお答えします。

1点目、残菜、残食の1日当たりの総合計につきましては、平成26年4月から11月までの1日平均は、公立保育所、各小中学校を合わせて約190リットルとなっております。なお、4つの公立保育所の合計の残食量は、1日平均3,664グラムとなっております。給食センターでは、配食はグラム単位、残食はリットル単位で記録しているため、残食量は何食分に当たるかという計算ができないので、ご理解いただきたいと思います。

次に、処理法につきましては、公立保育所からの残食は、小学校へ持っていき、給食センターが小学校へ回収に回ります。給食センターに集められた残食は、水切りをして、水分は浄化槽へ送られ、固形物は残菜室で保管し、週に2回、養豚業者に引き取ってもらっております。

続きまして、消滅型生ごみ処理機の導入につきましては、田畑議員が紹介された消滅型生ごみ処理機は、ごみ減量に役立つとともに、循環型社会の構築にも役立つすぐれた機械であると認識しております。

しかし、本市の処理方法もごみの有効活用の一翼を担っておりますし、現在の給食センターにその機械を導入するとなりますと、機械設置のための建屋や配管の設置などを含めると、高額の投資が必要となってきます。こうしたことから、今後、給食センターの大規模な機械等の入れかえの必要が生じたときに、消滅型生ごみ処理機の導入も検討していきたいと思います。

○松下議長 再質問を許します。

田畑昭二議員。

○田畑議員 まず初めに、健康ステーションの件であります、どういう取り組みを今現在なされているかということに対して、さまざまな講習等をなさっていると。年3回行っている等々言われておりますが、1回の講習の期間、スパン、どのぐらいの講習の期間をされていらっしゃるのか。また、講習を受けられた方及びその講習に対する効果というのは、なかなか数値化は難しいんでしょうけども、目に見えたような効果がもしあれば教えていただきたいと思います。

それと、健康寿命というのが、先ほど私言いましたように、65歳以上で要介護2にならない、また、死亡に至らない年齢という定義があるようなんですけども、このデータは、奈良県は34年には1位になりたいというふうに目標設定されているわけですけども、恐らく公開されているんじゃないかなと思うんです。奈良では、たしか和歌山県は28位だというふうに聞いたんですが、公開もしされているのであれば、その内容、岩出市としてもデータをつかまれておるのであれば教えてもらえたらと思います。

それと、答弁も言われてましたけども、健康ステーションというのは、特に、奈良は大成功している1つの原因として、近鉄百貨店が無償で場所を提供しているというのが大きな要因になっているようであります。お買い物に来られた方が、ついでにここでしょうということ、1月から約9カ月間で3万84名、既に来客されているということですね。すごい人数です。1日平均で116人が来られてるとい

うことで、あと、先ほどのメディウォークの貸し出しは790人に至っていると。恐らく、今、これ10月のデータですんで、そのように関心のある方は物すごくたくさんいらっしゃるということと、もう1つは、これだけに来ないで、何かのついでに来るというか、こういうこともやっているんだったら、私、1回やってみよう、そういうことで来られている状況です。その中で、健康に対する意識を変えていただくという、そういう取り組みをなさっているそうです。

来場者の主な声ということで、これいただきましたけど、買い物に来ただけなのに、健康についていろいろ話ができ、うれしい日になった。病院から歩くことを進められているが、どれだけどう歩くのかが目安できてうれしい。また、ほかの地域にも健康ステーションを設置してほしいというのが来場者の声だそうです。

あと活動量計を2週間体験された方は、家の中を動いているだけでは中強度の運動にならないことがわかった。活動量計を持つと動きたくなってくるということで、今まで自転車で行ってたところをちょっと歩いていこうかなというふうに、歩く方向にどんどん変わるということで、非常に前向きな方が多くなったというデータが出ているということです。

そういうことで、岩出市においても、公共施設もいいんですけれども、できましたら大型店舗等々いろいろな協議していただいて、そこへお客さんとして来たいいただいた。また、それを目的に来られる方、またお客さんになりますから、お互い相乗効果で持ちつ持たれつでいい方向に行くんじゃないかなと思ったりもいたします。

そういうことで、ぜひともそういうステーションの場をできるだけ多くとることによって、言い方は悪いですけど、国保税の抑制や、また、介護の抑制にもつながります。何よりもご本人自身が健康で長生きしていくということが、非常に最高の幸せになっていくと思いますんで、できましたら、そんなにたくさんの経費が要るわけでもありませんので、前向きに検討いただけたらありがたいと思います。

2点目の残菜等の処理法でございますけども、先ほどもちょっと言われてましたけども、設備投資が非常に高額になると。ただ、紀の川市の場合は、建物も全部新築ですので、一切含んで設備投資しましたからできたんですが、岩出市の場合は、現にある設備にどう入れるかということになってくるんでしょうけども、それだけ固定してぼんと置いても、別に問題ないわけです。

紀の川市の場合は、粉碎機と脱水機と、それとこの機械と連動して全部動かすようにやっていますんで、大がかりになっていますけれども、その機械だけを置いても、生ごみをそのまま放り込んでも十分対応できる機械です。ちなみに、ちょっと

費用を言っておきますと、機械そのものは、24時間で全部菌によって分解するその機械は1基750万です。その中にセラミックのボールが入っています、1センチぐらいのちっちゃな。それは四、五百個入っています。それがどんどん、その中に菌がいっぱい入っていますんで、年間ずっとやっていると小さくなっていきます。それを補充するのに、年間約50万ほど要ります。菌もやっぱり少なくなりますので補充するのに4万円、年間要ります。それが大体ランニングコストです。

そういうことでいきますと、あと、そこに入れたものは完全に蒸発してしまいます。普通であれば、ぬかとかそういうものを入れて攪拌させるケースが今までありましたが、そういう機械じゃなくて、完全になくなるんです。蒸発してしまいます。例えば、亡くなった人が土の上に置いておきますと、骨だけになりますね。ああいう状態になって、生ごみは全部消えてなくなります。ちょっと、私中をのぞきました。におい、一切ありません。そういうことで非常に衛生的であるということと、生ごみをそのまま水分も一緒に入れますと、下に液肥がたまるんです。液肥がたまります。その液肥はすごい優良な有機栽培の肥料になります。そういうことで、その肥料も使えますという、そういう特許も持っておる機械なんですね。

そういうところ辺で、非常に今後の衛生面や循環器型のそういう社会の中での位置づけ等を考えれば、導入も視野に入れていいんじゃないかなと。確かに高額ではありますけれども、将来的にはそういうような、特に、衛生面は非常に有能な機械であるということ、そういうことも一応踏まえて、もう一度答弁を願いたいと思います。

以上です。

○松下議長　ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○杉原生活福祉部長　田畑議員の再質問にお答えいたします。

まず、シニアエクササイズ教室の関係でございますが、期間と効果ということでございます。平成26年度で申し上げますと、参加人数は1教室当たり定員20名で募集を行いまして、平均17名の方が参加しておられます。それから、期間ということでございますが、この教室は、年3回を予定してございます。1回目は5月から7月までで毎週木曜日、全体で12回、それから第2回が9月から11月までの毎週木曜日で12回、それから3回目が翌年の1月から3月までの毎週木曜日の全12回と、こういうことになってございます。

それから、効果ということでございましたが、やはり、仲間で運動するため、運

動が継続しやすいということでございます。それから、運動することで継続的なそういう取り組みによって、瑕疵筋力の低下を予防し、体の状況の維持ができています。それから、仲間づくりの場となっているといったような効果があるものと考えてございます。

それから、健康寿命の関係でございます。

岩出市の健康寿命につきましては、これは県の資料で、平成22年度の市町村の健康寿命の状況表というものがございまして、それによりますと、男性が77.92歳、これ県下で3番目ということです。県下で3位。それから、女性が82.05歳、県下で20位ということになってございます。

それから、健康ステーションの設置ということでございます。

市としては、健康づくりというものを推進しているわけで、そのことよっての相乗効果としては、やはり国保であったり、介護であったりというそういう給付費の抑制にもつながっていくということで、非常に大切な取り組みであると考えてございます。

健康ステーションの設置についてでございますが、先ほどお答えてさせていただきましたように、他県、他市のそういった取り組みも含めた中で、情報を収集し、その上で検討していきたいなと、このように考えてございます。

○松下議長 教育部長。

○谷中教育部長 循環型の消滅型生ごみ処理機の導入について、お答えします。

機械設置のための建屋や配管の設置などを含めると、約3,000万円必要となってきます。それと、紀の川市は4,000食、岩出市は5,500食処理する能力が要ってくるので、機械が一回り大きくなってきます。それで、今後、給食センターの大規模な機械等の入れかえの必要が生じたときに、消滅型生ごみ処理機の導入も検討していきたいと思います。

○松下議長 以上で、田畑昭二議員の一般質問を終わります。